

王寺町総合計画審議会(兼 総合戦略懇話会)効果検証 会議録

日 時	令和5年6月27日(火) 14:00~15:50
場 所	やわらぎ会館 3階 小会議室1
出席者	<p>委 員 中川幾郎会長(帝塚山大学名誉教授) (順不同) 直田春夫会長職務代理(NPO政策研究所理事長) 沖 優子委員(王寺町議会議長) 中井一喜委員(〃 議員) 井村知次委員(王寺町自治連合会会長) 黒田ゆかり委員(王寺町社会福祉協議会理事) 佐野純子委員(王寺町観光協会アドバイザー) 長岡雅美委員(奈良テレビ放送株式会社代表取締役社長) 東中有紀委員(王寺町教育委員) 平岡秀隆委員(王寺町副町長) 福井伊佐男委員(王寺町商工会会長) 森 正治委員(王寺町CIO補佐官) 池田満津子委員(町民公募) 横山奉典委員(〃)</p> <p>王寺町 平井町長、中野教育長、守田理事、山田教育委員会理事 幸田総務部長、南住民福祉部長、増田健康子育て支援部長、 前田地域整備部長、源水道部長、藤岡教育総務部長 柏本社会福祉協議会部長、藤本総務部参事</p> <p>事 務 局 吉田政策推進課長、酒田総合戦略係長 (株)総合計画機構 今井氏、春田氏</p>
次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 王寺町の人口動向について 2. 数値目標・KPI達成状況についての個別説明、質疑応答及び評価 3. 全体講評 4. その他
<ol style="list-style-type: none"> 1. 王寺町の人口動向について 事務局説明 2. 数値目標・KPI達成状況についての個別説明、評価 事務局説明 	

(以下、質疑応答)

- 委員 王寺町の人口動向で「令和4年度に大幅な社会減・自然減となった」とのことだが、これの要因をどのように考えているか。また、南元町以外の地区において、平成23～25年度の人口減少の要因について調べているかを聞きたい。
- 事務局 令和4年度の大幅な社会減については、若年層の減少が多かった。東京などでの遠方への就職について、ここ2～3年コロナ禍で控えられていたものが再開され、一度に転出されたのではないかと。
南元町地区以外での、平成23年～25年度の社会減については、細かい分析はできていない。その後回復した一つの要因としては、平成25年に現町長が就任し、それから子育て施策、観光施策で町の魅力を高め、子育てしやすい環境を強く推進してきたことで、人口減に歯止めがかかったのではないかと。
- 委員 令和4年度に社会減が多かったが、すでに転出先は分析したか。
- 事務局 まだできていない状況。今後分析したい。
- 委員 王寺町の人口ビジョンでは、令和42年に20,257人と将来像を描いている。王寺町として将来的には人口2万人程度の町を目指していく意思表示なのか。今の人口は2万4千人であり、この町の適正規模は、町として行政をする上で、サービスを受ける方及び提供する方から考えて、適正な人数が令和42年には2万人というの少ない気がする。
当初の社人研推計では令和42年に約1万2000人。王寺町はもっとポテンシャルがある。
2万人の維持を目指すというのは、王寺の立地条件、病院もできるという所で、なんとなく少ないのではないかと感じる。
- 委員 KPI「関空からの直通バス路線」は、見込みがないということだが、後期基本計画ではどのような取扱いにするのか。
- 王寺町理事 バス事業者からの賛同が得られておらず現実味が乏しい状況。引き続きバス事業者と協議を行うが、現状のままであれば、見直しが必要だと考えている。

委 員	<p>関空直通バスの誘致については、王寺町だけでやってきたのか、それとも、「WEST NARA 広域観光推進協議会」など広域で連携して交渉してきたのか。これまでの協議の内容について聞かせていただきたい。</p>
地域整備部長	<p>「WEST NARA 広域観光推進協議会」は、大和郡山市、平群町、三郷町、斑鳩町、安堵町、王寺町の1市5町で、広域観光を推進している。様々な機会を通じて交通事業者への働きかけを行っているが、関空直通バス運行は、主体となる交通事業者に採算性がないと判断されているのが現実だ。</p>
委 員	<p>中和・西和地域7市町での公共施設相互利用の実証実験が令和4年度から始まっており、これには令和5年度から新たに御所市が加わるようになっていく。王寺町民の生活圏から考えて、三郷町や斑鳩町などを加えるような検討や働きかけが必要ではないか。</p>
総務部長	<p>公共施設の相互利用については、近隣町への呼びかけもしているが、なかなか進まない状況だ。</p>
委 員	<p>がん検診受診率の指標について、「平成30年度から国の対象者数の考え方が変更された」とあるが、比較ができないとなるとどう取り扱ったらよいか。この指標を継続して後期基本計画でも単純比較ができないでは、成果があるのかどうか分からない状況になる。</p>
健康・子育て支援部長	<p>がん検診の受診率は、平成30年度に国が受診率を示す分母となる数を変更したことから、このような表記としている。指標を設定したときの基準値はこれで正しかったが、変更されてからの結果を基準値と単純比較することはできない。平成30年度以降の数値については比較できると考えている。</p>
委 員	<p>がん検診の受診率については、今回提示された王寺町の指標の推移だけでは評価できないが、県平均や他団体の状況などと比較することで評価することは可能ではないか。</p>
会 長	<p>平成29年度の基準値が使えないということなので、次回から基準値を平成30年度のものに変更してもよいのではないかと。</p>
事務局	<p>他の指標でも同じことが言えるが、後期基本計画策定に合わせて、目標の上方修正・下方修正、指標の見直し等の作業をしていきたい。</p>

委員 下水道水洗化率については、目標を達成しているが、未接続の家屋について、主なエリア、家屋の形態（戸建て、アパート・マンションなのか）、その理由などがわかれば教えてもらいたい。

水道部長 令和5年3月末で、地域別に言うと、舟戸3丁目、畠田8丁目が低く、他はすべて95%以上となっている。家屋の形態については把握していない。

3. 全体講評

委員 子育て支援が充実しているということで、保護者の方から王寺町に住んで良かったという声を聞く。
南元町では人口が増えているが、それ以外の場所で人口をどう増やしていけばいいのかが課題だ。若い人たちにいかに王寺に定住していただけるか。王寺町の人口が伸びていけばいいと考えている。

委員 今回、評価する側になって、評価することの大変さを実感した。指標だけでは評価できないものもあるが、多くの分野で一定の効果が上がっている。退職して、改めて町行政を見るような立場になって、最近よく感じているのは、様々な取り組みにおいて、より効果を発揮しようと思えば、住民の方に知っていただき、使っていただくことが必要だということ。適時適切な広報、情報発信が必要だと、改めて感じている。
オープンデータについては、更新されていないデータもある。
住民アンケート調査では、町や地域の情報の取得方法として広報紙「王伸」が90%近いという結果が出ており、これだけ見られている「王伸」をどんどん活用しなければならないと感じている。
定住促進に向けて、民間会社による熱心なPRだけでなく、町が取り組んでいる様々な子育て支援施策の情報を、町が自ら発信することで、さらに王寺町を選んでもらえるようになる。

委員 防災訓練や自主防災活動がコロナ禍で少なくなったのは、仕方がないという思いもある。防災士資格者の数がかなり増えてきている。防災士ネットワークを通じて、住民の防災に対する認識を深めていってもらいたいと思う。サロンについては、以前と同じように常時開催されるようになり、参加者からは「待ってたよ」と喜んでいただいている。参加人数もコロナ禍前くらいまで、ほぼ戻ってきている。みんなが楽しんでいる様子が手に取るようにわかる。これから、そういう人たちとより一層いろいろな話をしながら、地域での様子、困りごとなどを、社協につないでいくことができたらいいと思う。

住民アンケート結果で、かなり多くの方が「王寺町に住んで良かった」「これからも住みたい」と感じていただいていることは、嬉しく思った。

委員 王寺町の人口はどれくらいがいいのかということイメージし、行財政が厳しい中で、それに見合う基盤の整備や住民に対するサービスをどうするのかを考えながら、次の計画を作らないといけないと思った。

指標について、最初に決めた段階から5年間、全く変えないという必要性はないと思う。指標が取れないような数字になれば、臨機応変に指標を変えていけばいい。評価できるデータがないと、委員としては評価無しになってしまう。ぜひ評価できる数字を入れてもらいたい。

全体的にみると、県内で人口の伸びがトップで、県全体の人口が落ちている中で、数少ない人口増の町であるので、行政としてはそれなりにうまくいっているのではないかと思う。

今後王寺町のあるべき姿はどのようなかということをも十分考えて、それに見合った計画を進めていただければと思う。

委員 以前、町村合併という話があったと思うが、人口が増えて、職員の人数も限られてくると、サービスの低下などのマイナス面が出てくると思う。

今後、町村合併という機運が出てきた際には、すべてのものごとには長所と短所があるので、そういうことを踏まえた検討をすることによって、王寺町もますます繁栄するのではないかと感じた。

委員 まちづくり協議会懇話会を立ち上げて、ワークショップを積み重ねながら、様々な層の住民の意向を聞いている。

コミュニティの希薄化を感じる一方、ワークショップを通じて協働の仕組みの構築が必要だという認識が徐々に上がっていると感じる。

ただ、いつまでも懇話会と言っているわけにはいかない。そろそろ、スケジュール的に、住民による「まちづくり協議会」設立の検討の段階にもっていかなければならない。

今の議会議長、議員も理解があり、議会でも研究しようとして「まちづくり協議会」の先進地視察に行かれることになった。議会、行政、我々町民が一緒になって、そのような仕組みづくりを研究しながら、前に進めていきたい。

委員 王寺町では、以前には無縁と思われていた観光資源をどんどん発掘してきた。また、観光に関連して、町内のいろいろな施策を「見える化」してきたことがすばらしく、王寺町が活発になっていく原動力になったのではないか。

例えばパッカー車や小学校1年生のランドセルカバーに雪丸のイラストが

ついている。

町内で清掃活動をされる人たちは、かなりの頻度で清掃していただいている。その方々が清掃活動時に着用しているピンクやグリーンのジャケットが印象に残る。そのような光景を目にすることで、清掃活動が活発であることを、参加していない町民も実感することとなる。

同じことが観光についても言える。明神山は、今とても登山者が多い。歴史リレー講座も大阪からも参加者が多い。それを町の人を感じることで、自分たちの住んでいる町の良さを実感していくと思う。

今回のような成果指標の数値と、町民の肌実感を、どのように融合させるかを考えていくことが大事だと思う。

委員 最近、王寺町外の方と話すことがあり、私が王寺町に住んでいると聞いて、「いいなあ、便利やろう」「交通の便がいい」「大阪へのアクセスがいい」と言われた。交通のことでいいと言われることは多いが、それ以外のことを言われることはあまりない。王寺町の住民の方がこういうことで住み心地がいいと思っている、そういう内容をもう少しアピールし、交通の便が良いこと以外でも知っていただく必要がある。

「子育て支援」について、「すくすく広場の年間利用者数」の減少について、利用者数自体はこれから増えてくると思うが、気軽に使えなかった時期に子育てしていた親子は、コロナ禍ということもあってしんどかったのではないかと思う。町としては1歳半健診や3歳児健診の時などに、孤立している親子がいないか、見てあげることが必要。そういう手厚さも満足度につながっていく。

委員 この6月に災害になるのではという大雨が降った。その時に王寺町安全・安心メールが送られてきた。その時ちょうど、このやわらぎ会館に来ており、昼から避難場所にするということであった。大雨の時、地震の時と、いろいろな想定をした訓練をしているが、その訓練の成果があったという印象を受けた。

委員 国が進めているDX（デジタル・トランスフォーメーション）の意味は、仕事や仕組みを「デジタルに」変えることではなく、「デジタルで」変えるということだと思っている。

王寺町はポテンシャルが高いのに、データをうまく活用できていない。アンケート結果を分析するツール等がどんどん出てきているが、できるだけ費用をかけにうまく活用する仕組みができたらと思う。

王寺町に来て一番驚いたことは、町公式LINEの登録者数が1万人を超えていること。そういう所はなかなかない。ただそれを活かさきれておらず

情報発信だけにとどまっている。子育て情報との連携やA I を使って 24 時間相談できるような仕組みなど、「デジタルで」仕組みを変えていくのが、これから大事だ。デジタルになったら人との付き合いがなくなるのではなく、逆にもっと増やしていけるのではないか。
データを活用する基盤をつくって、みんながそれを利用することで、豊かな王寺町に変わっていける仕組みをつくっていければと思う。

委員 西和医療センターの移転について、私の考えを述べたい。
県知事による公共施設の見直しにおいて、西和医療センターの王寺駅南口への移転については、「現在の予定地は狭く、既存施設の移転補償などが必要、他の候補地も含めて検討、今年度予算は減額する」と新聞に載っていた。テレビでは、アクセス、土地の面積、費用対効果、スケジュールなどの観点で他の候補地と検討し、適地を選びたいと言っていた。
奈良総合医療センターが尼ヶ辻にあったものが現在の鉄道アクセスがない場所に移ったことから王寺のアクセスの優位性は失われており、他の町の候補地に負けることが危惧される。
そこで、新たな候補地を提案してはどうか。私の勝手な思いだが、一つは王寺小学校跡地、もう一つは三郷町惣持寺地区の調整池工事をしている場所で、三郷町と共同で応募すれば王寺町にも十分メリットがある場所ではないかと思う。

会長職務代理 人口データの社会増減、自然増減について、南元町地区以外では減少しているところが多い。日本全体の傾向と同じように推移している。
県内で人口の取り合いをしているだけの話だという視点も必要だ。王寺町だけ人口が増えて万々歳という話ではない。周辺が没落すれば、王寺町も次にはそうなる。中域、広域での連携が大切だ。将来人口が 2 万人で適正かという話が出ていたが、数字的にどうかはわからないが、私はこのくらいがいい線ではないかと思う。それを見越して整備をしていくので、そういう意味での方向転換が重要だ。
コロナ禍で人が集まるような指標はどれも減っている。新しい指標の設定もあるが、新しい施策の方向を検討する必要がある。コロナが元に戻れば、全部元のままで行けるわけではない。
時代の変化、社会の変化があり、出勤するか自宅で仕事をするか、別の所でシェアするか、働き方も変わってきている。そういうことを考えていかないと、これからの社会についていけない。
アフターコロナで、人と人をどうつないでいくか、そういうイベントをどう仕掛けていくか、これを機会として、新しい政策が作り出せるといいと思う。

指標だけにこだわりすぎると他が見えなくなる。関空直通バス路線は、交通体系全体で見れば、天王寺まで出れば関空まではすぐだ。そのように全体を見ることで、最適な、適正なものがあれば、そちらに誘導していく施策が必要だろうと思う。

いくつかの指標を見て、取組一覧も見て、施策全体として考えていかないと、あまり細かい所に一喜一憂しても前に進まない。

会 長 次に策定するのは後期基本計画になるが、基本構想部分は引き継がなければならないことは、ご承知いただきたい。基本構想の土台の上に前期と後期に分けて基本計画を策定する。

人口ビジョンに大きな変更要素があれば、適正人口ということを考える余地はあるかもしれないが、基本構想に掲げる理念まで変えることはできないことを、ご承知おきいただきたい。

本日提出いただいた評価シートを基に、評価を集計する。今後のスケジュールは、7月、8月に1回、9月に2回、11月に最終答申という予定となっている。今回の評価をフィードバックした素案を点検しながら、素案審議は4回、ブロック毎に仕上げていく。

今回の審議会では、後期基本計画に投影する視点をいただいた。1つは指標を変えることは全く構わないということ。理想論で設定した、出すのにコストがかかりすぎる指標で失敗した例も多い。我々はそういうことは避けて、日報・月報からあがってくる数値を使うのがいいと考えている。日常業務の中から出せる指標を探すべきだ。指標を変えることには、何ら問題はないが、連続性を担保することを捨ててしまうのではなく、一定のつながりが見つかるといったような指標を探すこと。

総合計画というと、多くの自治体・議会・住民も役所の計画だと思っている。そうではなく住民と行政と議会、三者の計画だ。地方自治の基本は、行政や議会が担当している団体自治の責任と、住民が担っている住民自治の責任の両方にある。住民がここを頑張るから、行政はここを支えてという関係になる。役所の責任が主になる分野と、住民の責任が重くなる分野はあるが。

例えば神戸市北区では、広域合併浄化槽を住民自治で運営していたところがあった。住民組合がもたなくなると行政に頼んだので、行政が引き取って指定管理者制度にして高齢者関係の外郭団体に運営を受け継いだ事例もある。上下水道も住民自治から出発している。水道は役所が引くものと思ったら大間違いだ。

だから、総合計画には住民自治の部分を書かないといけない。特に、防災・防犯・消防。消防団がいてくれるから自治体が助かっている。

地域コミュニティの役割はますます大きくなっているが、地域コミュニテ

ィにそのまま仕事を増やしていくとコミュニティが倒れてしまう。どうすればいいのか、その辺を皆さんに研究してもらいたい。それが委員の責任だと思っている。

我々は政策提案をして、それで行政と対話をしよう。大所高所からものを言うだけでは困る。政策提案に政策対話をしよう。そういう意味で住民自治を意識すべきだと思うし、何かあれば役所に文句を言っている 20 世紀型の住民ではなく、行政と一緒に地域の経営をする共同経営者として、プライドと能動性を持つべきだと思う。

次の後期基本計画では、あれが足りない、これが足りないということはやめて、やるべきことを考えませんか。前期と同じように、住民自治の役割、団体自治の役割を掲げ、その間に望むべき協働の姿がにじみ出るような構成を考えてもらいたい。

アンケート調査報告書を見ていて、その扱いを考えてもらいたい所が一つある。重要だと思っていることと、満足していることの両方が住民の意識にかかっているわけだが、住民の意識が狂っている可能性もある。住民が重要だと思っても、むしろほかにもっと重要なことがあるかもしれない。住民が満足していても、それに満足しては困るものもあるかもしれない。アンケート結果を見ると、本当に自分中心主義になっていると思う。これを変えるのが大事ではないか。

防犯、治安、適正な土地利用、救急医療、これらはみな自分の命や暮らしに関わることで防衛反応だ。確かにそうかもしれないが、それを維持するために必要な、一方の文化的なもの、モラルティ、倫理的な相関性をもっと作ってもらわないといけない。特に男女共同参画、人権啓発は重要だ。

住民意識がすべて正しいという前提に立つ必要はないと私は思う。マーケティングでいう「ウォンツ」がかなり前に出てきている。「ニーズ」に触れていないかもしれない。その間に「デマンド」があるが、「ウォンツ」と「デマンド」ばかりに引きずられている行政政策は破綻する。

人権啓発をきちんとしなければ、災害時の避難所経営はできない。避難訓練で、「そこの奥さんたち、すまんけどご飯炊いてくれんか」と言って、判定員が訓練をストップした事例もある。男女共同参画を理解しないと、女性差別を蔓延させる、そういうことも考えないといけない。

防災、防犯、休日医療、高齢者福祉を進めるのであれば、なおさら人権啓発をきちんとしないとイケない。高齢者の人権、障害者の人権、そういう政策の裏付けを忘れないように、これからも政策の連動性を行政は意識してほしいし、私たちも一緒に議論したい。皆さんもそういうつもりで点検をしてくれたらうれしい。

王寺町総合計画審議会としての効果検証は以上とし、出された評価をもとに事務局でまとめさせてもらう。

4. その他

- ・今後のスケジュールについて 事務局説明
- 閉会

以上